



### 筋力の向上が自信につながり活動量の増加へ

長年使っていたコルセットを外すことができました！  
楽しみのカラオケに行けるようになりました！

- 友人とカラオケに行くことを楽しみにしていたが、友人が施設に入所し、交流の場がなくなっていた。要支援1の認定を受け、福祉用具の購入と運動教室などへ行きたいと相談があり、仲間づくりと再度カラオケに行くことを目標に当サービスの利用を開始した。
- 当サービスでは、カラオケに行き歌えるようにと、筋力と持続力向上に取り組み、併せて地域の通いの場への参加を促したり、同じサービス利用者で近隣の人とのつながりも行われた。
- 筋力の向上に伴い歩行能力も向上し、移動能力においては屋内外共に転倒リスクが減少。長期使用していたコルセットを外せるまでに至った。このことが利用者本人の自信につながり、散歩をはじめられたり、友人とカラオケに行かれたりと生活の活動量が増加された。
- サービス終了後は地域の通いの場に参加され、他者との交流を楽しんでいる。

動くのがとても  
楽になりました！

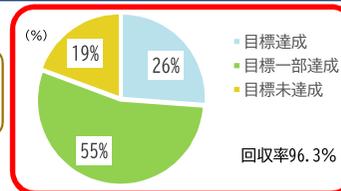
通いの場  
に行けるようになって  
よかった！

練習用のカラオケ  
機械を買って家で  
歌ってます！

## ■地域ケア会議推進事業の成果（これまでの取組の一部）

### 個別課題解決機能

地域ケア会議で助言をもらった検討ケースの3か月後の評価は、約8割が「目標達成」「一部目標達成」。助言やケアマネジメントの気づきを実践につなぐことができている。



### ネットワーク構築機能

「人的資源」がその活動や目的にあわせて、うまくつながりあえるようになった！

- ・個別の地域ケア会議の積み重ねにより顔見知りの関係ができてきた
- ・お互いの得意なことや役割の理解がすすんだ
- ・地域の人材を巻きこんだ集まりが増えた。
- ・コロナ禍を経て、集合型やオンラインなど、状況に応じた方法を選択し実施でき、以前よりも気軽に集まれるようになった。

### 地域課題発見機能

各地域包括支援センターエリアで年度末に地区診断した結果を、関係機関・団体に報告

### 地域づくり・資源開発機能

- ・入退院の連携 -----> 天草圏域における入退院支援におけるルール及び情報共有シート作成。シート活用してのケアマネ・包括の意見交換会を実施。在宅看取りの研修会の実施
- ・地域の支え合い・見守り -----> 小学校の福祉学習の機会を活用し、高齢者への理解を深め通いの場の高齢者との交流を実施。
- ・移動が困難な地域が多い -----> 詳細な実態把握を目的に、各包括エリアにおいて移動に関するアンケートを実施。包括より地区振興会に高齢者の移動課題を伝え、振興会自ら病院へ送迎バス利用を交渉し、運用に至った。
- ・栄養のアセスメントが弱い -----> 栄養士会天草地域事業部研修会で、介護保険と地域ケア会議について説明。GWでは在宅における低栄養者への支援や効率的なタンパク質摂取等について検討。その結果を、ケア会議で助言として還元。

## ■地域ケア会議 個別課題の解決～地域づくり・資源開発機能

### # 町内にバス路線がなく、商店もない。買い物が不便

・86歳女性、娘と2人暮らし、要介護1。娘は就労中のため、日中・週末は独居。  
 介護サービス：週2回デイサービス、歩行器レンタル  
 移動：以前は自転車利用。転倒を繰り返すようになり、現在は徒歩。長距離移動可能だが転倒を繰り返す。  
 IADL：概ね家事は自立。娘が主で買い物実施。本人も買い物に出かける。  
 地域活動：近所の方の声掛けで渋々グランドゴルフへ参加

本人の望む暮らしは「娘の帰りも遅いし、夕飯の準備をしたい」。現在は徒歩で買い物に行けるが、認知機能も低下しており今後困難になる可能性あり。

地域をリサーチすると・・・

- ・高齢化率：25.8% 内後期高齢者率：55.7%
- ・買い物に困っている人あり  
移動販売を「今すぐにも使いたい」2件  
「あったら使いたい」4件
- ・老人会主催でグランドゴルフを定期的実施
- ・今後免許返納すると移動手段がなくて困る
- ・独居で困っている人が数人いる



・買い物が困難 ----->

区長・民生委員と地域ケア推進会議で地域課題を共有。住民への聞き取り等で現状を集約し、移動販売お試し会の検討。区長により区内回覧後、お試し会実施し、高齢者以外の地域住民の参加もあり移動販売の実施となった。

・症状が進んでからの認知症の相談・支援が多い ----->

家族介護者交流事業にて認知症ミニ講座の開催。  
 自動車教習所と連携し、高齢者講習参加者への認知症ケアバスの配布開始

認知症初期集中支援チーム検討委員会関係機関の役割と支援内容の確認及び共有を実施

包括の出前講座の際、「将来を見通した支援（地域の現状や認知症に関する理解の普及、自助力を高めるスマホや道具の使用方法、地域のつながりの大切さや相談先の周知）」について啓発の継続。

### 政策形成機能

・男性集まりの場がない  
老人会継続困難 ----->

高齢者向けスマホ体験会の卒業生で構成されたスマートカレッジが各地区で開催。スマホを認知機能低下の支援ツールとして活用を周知啓発。

・訪問介護員の人材不足 ----->

訪問介護事業所専用ごみ回収拠点整備事業において不燃ごみ回収開始（R4.4月～）

・移動困難 ----->

福祉タクシー券交付の基準緩和（R4.4月～）

・症状が進んでからの認知症の相談・支援が多い ----->

認知症に特化した通所型フレイル予防サービスの創出。  
 認知機能評価会のリニューアル。70歳到達者の脳いきいきチェック会を開始。

脳いききサポーター不在の通いの場にて、地域の住民を含めた認知症出前講座を実施。

難聴による地域活動の減少と認知機能低下を予防することを目的とし、65歳以上の市民（本人非課税）に対し片耳補聴器代半額補助（3万円上限）をR7予算計上予定。

・認知症の方への対応困難  
家族の介護負担軽減 ----->

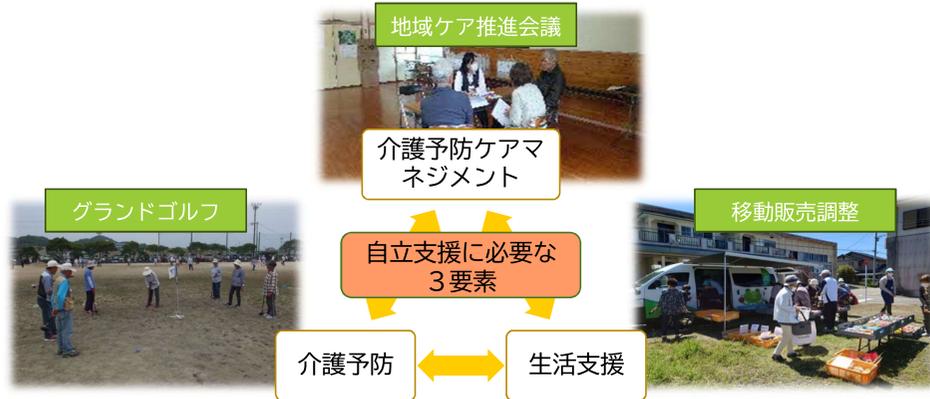
住民及び家族、サービス事業所スタッフが相談できる、認知症・もの忘れ・なんでも相談室の実施。熊本県認知症介護指導者・認知症対応型グループホームの職員が対応。

初期集中支援チームを3チームへ拡大。認知症患者センターの後方支援を受け、地域ごとに3人のサポート医と連携しながら早期対応を実施。

認知症サポート医により、本渡地区・牛深地区にて隔月で認知症サポート医相談室を開設。

## ■地域ケア会議 個別課題の解決～地域づくり・資源開発機能

- 令和6年3月 自立支援型地域ケア会議  
 令和6年4月 区長、民生委員と地域課題を共有(地域ケア推進会議)  
 「困っている人を地図に落としてみては?」と区長より提案  
 →現状把握「今すぐにも使いたい」2件、「あったら使いたい」4件  
 結果を区長、民生委員、老人会へフィードバック。包括が移動販売業者と調整  
 令和6年5月 移動販売お試し会のチラシを回覧板で周知  
 移動販売お試し会実施 ～アンケートを取って結果を区長・民生委員と共有  
 移動販売 本格始動(毎週木曜日)



### 自立支援の視点での気づき

#### 理学療法士 (PT)

主に基本動作能力(立ち上がり、立位保持、歩行等)の回復・改善や維持、悪化防止の観点からの助言  
 (介護予防活動普及展開事業 専門職向け手引きより(天草市地域包括ケアナビ掲載))

#### ●理学療法士への感想

- ・具体的な運動や自宅で行えるリハビリ等の提案が参考になった。
- ・リハビリの必要性、今後の見通し、しないことによるデメリットを根気強く伝える必要性。(人工膝関節全置換術後のリハビリ)
- ・転倒予防のための細やかな屋内外動線の確認を行うことや、歩行補助用具も本人の身体機能に適したものを選定することの大切さに気付いた。

#### ●理学療法士自身の感想

- ・PTとして利用者の評価内容を、しっかり多職種に伝達することも重要であることが再確認できた。
- ・介護度が一緒でも個人の環境因子で課題が異なることを再確認できた。
- ・介護保険の中の『自立』や『リハビリテーション』について理解を深めることが必要。
- ・病院リハビリ業務では機能面・障害面を主に考えることが多かったが、生活面について考える機会になった。
- ・地域サービスの活用、環境設定、福祉用具の活用をもっと促したい
- ・病院勤務のため、在宅生活に向けての支援が結びつかないこともあるが、この会議を通して多職種の関わりが必要だと感じた

#### ●理学療法士へのお願い

- ・リハビリや作業療法での工夫した道具の紹介や勉強会など計画してほしい
- ・転倒の要因・動作等、具体的にチェックする方法を知りたい。
- ・専門的な視点での運動方法を知りたい

21

23

### 移動販売での買い物の様子



移動販売車：就労継続支援サービスB型(障がい者の賃金アップ、地域の方との交流の場に・・・)

22

### 自立支援の視点での気づき

#### 作業療法士 (OT)

主に応用的動作能力(食事・排泄等)、社会的適応能力(地域活動への参加・就労等)の心身両面から回復・維持、悪化の防止の観点から生活行為向上動作能力(立ち上がり、立位保持、歩行等)の回復・改善や維持、悪化防止の観点からの助言  
 (介護予防活動普及展開事業 専門職向け手引きより(天草市地域包括ケアナビ掲載))

#### ●作業療法士への感想

- ・椅子の調整等、本人の状態像に応じたアドバイスが参考になった
- ・調理をする姿勢や台所の環境を検討することで、今よりも楽に家事ができることがわかった。
- ・食事の際、「床と足」「背もたれ」「テーブルの高さ」の状態確認が必要。
- ・冷蔵庫の配置など環境面を整備・工夫することで解決につながることを知った。

#### ●作業療法士自身の感想

- ・地域生活へスムーズに移行できるよう、入院リハの段階から、介入・調整をしていく必要がある。
- ・何度もトライ&エラーを繰り返しながら、その人らしい自立した生活を見つけていきたい。
- ・自助具、福祉用具の選定や使い方等の視点や知識が必要。市販の家電の知識も必要。
- ・家族とのつながりを考えて訓練を行っているが、地域や友人とのつながりは院内リハビリでは難しい面も多く課題である。

#### ●作業療法士へのお願い

- ・リハビリや作業療法での工夫した道具の紹介や勉強会など計画してほしい

24